

夢に向かって

副校長 佐藤 多佳子

長い夏休みが終わりました。様々な体験を積み、一回りも二回りも大きく成長した子どもたちが学校に戻ってきました。元気な子どもたちに会うことができ本当にうれしいです。やはり、校舎の中で子どもたちの声が聞こえないと寂しいものです。今日からまた、活気あふれる毎日が始まります。

今年の夏は、オリンピック開催の熱気に包まれ、例年とは違ったあつい夏となりました。連日伝えられる日本選手活躍のニュースに、釘付けになり応援された方、あこがれのまなざしで競技の様子を見つめた子どもたちも多かったことと思います。

メダルラッシュにわいた今回のオリンピックでしたが、メダル獲得の瞬間は、本当に興奮し、選手とともに喜びました。国を代表する選手たちが競うのですから、メダルは、そう簡単に手にすることができるわけではありません。4年間努力を続けるだけでもすごいことですが、本番の試合で結果を出す、という高い能力と精神力の強さは本当に驚きです。ある選手は、前々回のオリンピックで思うような結果が出せず、次の回でのリベンジをねらっていたところ、代表に選ばれず、今回、出場し見事金メダルに輝きました。8年越しの金メダルです。8年も気持ちを持続させるのは容易なことではなかったでしょう。また、ある選手は4連覇という偉業に挑戦しました。12年もの間、トップを譲らず、さらに頂点を目指し、努力し続けるのですからすごいことです。選手本人の努力は本当に尊敬するばかりですが、くじけそうになる選手の気持ちを支えた家族、仲間、指導者など周りの人の存在もなくてはならないものだったと思います。夢に向かって進むには、本人の強い気持ちと周りの支えが必要なのです。

また、オリンピックは、こんな競技が行われているんだと様々なスポーツを知る機会にもなりました。競技の様子を見ることで、「やってみたい」という気持ちになった子どもたちがいるのではないのでしょうか。また、今、取り組んでいるスポーツをさらに続けていきたい、世界で活躍できるようになりたいという夢を描いた子どもたちもいるかもしれません。

メダリストの多くは、「オリンピックでメダルをとる」という夢を小学生のときからもっていたそうです。小学生の頃は漠然とした夢だったかもしれません。でも、夢をもたないとそこに近づくことはできないのではないのでしょうか。市沢小の子どもたちにも「この道に進みたい」「こんなことをやってみよう」という夢を見つけて欲しいと思います。そして、具体的な目標をもってそれに向かって努力できたらいいと思います。子どもたちの可能性は無限大です。夢に向かって進む子どもたちを応援していきたいです。

笑い話のような話ですが、低学年の子どもに「先生は、大きくなったら何になるの。」と聞かれたことがありました。思いがけない質問に、すぐに言葉が出てきませんでした。でも、いくつになっても目標をもって、これから先、何を目指していくのか考えなくてはいけないのです。

子どもたちに、感動、元気、勇気を与えてくれたオリンピック、夢をもつこと、目標をもって進む大切さを教えられた気がします。

今日から始まった学校生活も目標を決めてそれに向かって進んで欲しいと思います。そして、私たちは子どもたちの夢を応援していきます。